

[第635回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、会議室での審議を止め、委員全員に書面参加で対応してもらった。書面提出の期日を令和3年3月25日(木)とした。

2. 開催場所 上記参照

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

※ 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため書面参加で対応

書面参加の総数 6名

書面参加の委員氏名

成瀬 國晴	河内 厚郎
たつみ 都志	鎌田 雅子
萩原 章男	内田 透

4. 議題

1) 番組審議(書面参加) 『ワダマミの子育て晴れたりくもったり』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題1) 『ワダマミの子育て晴れたりくもったり』
について、番組の企画意図・内容の資料をご覧のうえ、番組を聴取
してもらい、書面でご意見を提出してもらった。

6. 審 議 内 容

社 側 <番組資料を送付>
『ワダマミの子育て晴れたりくもったり』は毎週金曜日の夜8時から放送
している番組です。
6歳の息子と1歳の息子、2人の子供の母親となったラジオ大阪アナウン
サーの和田麻実子が、子育ての苦労話から子育てアドバイスやおすすめの
子育てグッズの紹介、お悩み相談まで幅広く対応する、お母さんやお父さ
ん、おばあちゃんおじいちゃんにも向けた子育て応援番組です。
前半のコーナー「息子たちの成長空模様」は和田の2人の息子の成長記録
を、空模様になぞらえて紹介するコーナー。今回の空模様は「晴れ」。ず
っと水を嫌っていた6歳の息子が、友達がプールに行きだしたことをきっ
かけに「自分も泳げるようになりたい」と言ったことに、和田は「子供の
成長の速さ」を痛感し、もっと早く気づいてあげられなかったことを反省
しました。
後半のコーナー「子育てのイロハ」では、冬にあると助かるグッズを紹介。
子供の鼻水を吸ってあげる「鼻吸い器」の便利さを紹介しました。また、
耳鼻科で子供に鼻のかみ方を教える際には、「片方ずつ、かむ」ように教
えてあげてくださいと聞いて、大人になった今では当たり前ですが、何も
かもが初めての子供にはそこから教えてあげないといけないのだな、とい
う気づきがあったことを話しました。

<各委員の書面でのご意見>

委 員 幼い子供を育てる親御さん、特に第一子の育児は、日夜戸惑いや驚き、苦労、
不安の連続。伴侶と2人で、あるいは1人で抱え込み、孤独感にさいなまれること
も少なくないだろう。そうした方々に一番必要なのは「共感」ではないだろうか。
「あつ、それ、あるある」「ああ、そういう対処をすればいいのか」と思い、気づくこと

で、気持ちが楽になったり、問題解決に導かれたりして前が開ける。

この番組は、まさにそうした悩めるお母さん、お父さんに寄り添うもので、大変意義深いプログラムだと感じる。パーソナリティーが子育てで真ん中の和田麻実子アナウンサーというのも、説得力があるし、かゆいところに手が届くニーズに合った情報を発信されていることだろう。今回の番組にあった「鼻吸い器」も、実体験したからこそ必要性に気づくことができる便利グッズだと思った。

私自身、3人の子供がおり、子育ては妻に頼りがちで不出来な父親だったが、それでも番組を聴いていてかつてのことを思い出した。4月から小学校へ通うご長男の制服採寸で、ブレザーを羽織り誇らしげな表情になったわが子を見て泣きそうになったというオープニングトーク。私も、転居が多くて幼稚園になじめず泣いてばかりだった長男が、卒園式で成長した姿をみせたとき、涙がこみあげたものだった。水を怖がっていたご長男が友達に刺激を受けて自ら再びプールに行きたいと言いだした「息子たちの成長空模様」でのエピソードも、わが子の成長とオーバーラップする思いだった。水を怖がるわが子を心配している親御さんはたくさんおられるだろうし、「焦る必要はない」と励みになったのではないだろうか。そうした親御さんに対し、和田さんからもう一言、アドバイスや励ましのメッセージがあればなおよかったかと感じた。

午後8時からという放送時間設定、子育て中の方々が聴きやすい時間帯なのかもしれないが、できれば、時間帯を変えてでも生放送の方がいいのではないか。たまたまこの日だけがそうだったのかもしれないが、メールやツイッターでリスナーからのメッセージを募集しながら、番組内でまったく紹介されないのはもったいない気がした。和田さんご自身の育児がありますし、いろいろ難しい事情もあるかと思うが、時には放送時間を拡大したスペシャル版とし、リスナーと双方向で質問や疑問に答えたり、悩みや喜びを電話で共有し合ったりと、リアルタイムでやりとりできる機会があればいいなと思う。

委員 前半の「息子たちの成長空模様」、後半の「子育てのイロハ」とともに、和田さんが子育て体験を主観的に語る内容である「成長空模様」では、息子さんの水泳の習い事について、子供の成長に驚かされたことや、和田さんが習い事そのものに肯定的ではないが、それでもいい事もあるといった話をされている。子育て情報はネットにあふれていて、初めてのことや迷ったことは、そこで情報収集するのが当たり前のようだが、リスナーが和田さんの実経験に触れることは、成功、失敗談によらず、感情を伴った貴重な情報になっていると思う。

後半の「子育てイロハ」については、グッズ紹介なので、和田さんの主観、

体験だけでなく、客観的な情報が加えられれば良いのではないかと思った。例えば、番組でも一部紹介はあったが、電動、手動だけでなく目的による使い分け方や、吸引することによる鼓膜への影響や適切な使用頻度など医療関係者の専門的な情報を補うことで、すでに使用している人への情報価値も提供できるし、コーナーの差別化にもつながると考える。

番組ひとつを丸々、子育て体験談で構成する技量には感心した。客観的な情報を付加することで、さらに完成度が上がるのではと思う。

なお、あんばんまんの曲をかけているが、乳幼児と一緒に聞いているという考えだろうか。少し違和感があった。

委員

子育てというのは本当に悩みが多く、まして初めての子育てとなるとママ友もすぐにはできないので、孤独で辛い時期でもあると思う。そんな時に、心に寄り添ってくれる子育て中のママへの応援番組ができたのはとても意味のあることだと思う。

和田さんが子供を大事に愛情いっぱい子育てしていることがよくわかる。今回の放送は「晴れ」の回でお子さんの水泳を通して成長がよくわかるいいお話だった。

鼻吸い器の話も、私の子育て時期には電動はなく、子供が嫌がるのでなかなかうまくいかなかった。結局子供の鼻から直接自分の口で吸ったことなどを番組を聴いていて思い出した。

今回は和田さんの子育て「晴れ」の話でしたが、どちらかといえば「曇り」や「雨」の話を聞いてみたかった。

子育ては本当に悩みが多く、不安をつねに抱えて子育てしている人が多いと思う。

そんな中で、リスナーとなるママさんは「悩んでいるのは私一人ではなかったんだ」という安心感が欲しいのではないだろうか。子育て「晴れ」話もいいが、「曇り」「雨」の同じ悩みで共感できることの方が求められている気がする。

和田さん一人で自分の体験談だけを語る、というのは番組として限界が来るような気がする。メールやお便りを募集してリスナーのエピソードを披露、和田さんが感想やアドバイスなどを出したり、時には専門家の方を呼ぶなど、いろいろと出来ることはあると思う。

また、便利グッズやお得な情報などもコーナーとしてあればリスナーも聴いて得する番組になるのではないか。

私はママ友ができるまでは不安でいっぱいだったが、同じ悩みをもつママ

友ができたことで、すごく楽になったことを思い出す。子育ての大変さ辛さ、旦那への愚痴など、共感できる人ができたことがなによりの救いだった。

そんなママ友のような番組を作って欲しいと切に願う。

委員 子育て中の親には、共鳴されるのだろうか？
私には、和田さんの一人舞台に過ぎないとしか思えなかった。きれいごと過ぎて「セレブママ」の独り言のような気がする。
ゲストが必要だと思う。小児科医などの専門家の意見などを入れないと一人合点過ぎて、「ワダママワンマンショー」みたいだ。リスナーの葉書紹介でもいい。
たとえば最近の未就学児童は、「習い事」を当たりまえのようにしているが、その辺のテーマも取り上げて欲しい。
またダウン症や発達障害児（いわゆる自閉症スペクトラム症）の児童も以前より増えているし、「普通」でない子も話題にしてほしい。きれいごとではいけないのが、子育てだと思うから。
コーナー①「息子たちの成長記録」はリアリティがあると思うが、時間的に少し長いのでは？11分は要らない。5分でよくはないか？
コーナー②「子育てのイロハ」でグッズ紹介は役に立つと思う。
「鼻吸い器」は35年前からある。ただし、電動はなかったと思う。
電動の意味あるのかなあ？と祖母の立場で思った。
孫の代にも使いましたが、手動で十分だと思うのだが（安いし）なぜ高額を支払ってまで電動を買うのか、その意味が分からなかった。

委員 6歳と1歳の男の子を持つ、和田麻実子アナウンサーの子育て応援番組。
子育てについて、母親の思いを（リスナーと）共有したいという和田は、自身の体験談を実感あふれる表現で紹介する。「小学校の制服の採寸で泣きそうになった」とか、「ドキドキする」という言葉で。
〈息子たちの成長空模様〉で取り上げた和田の長男のエピソードは、母親として反省する気持ちが込められているせいか、一語一語ゆっくりと語る。
〈子育てのイロハ〉でとりあげた「電動鼻吹い器」。こういうものがあるとは知らなかった。子育て中の世代に、心強い味方となる情報はいくらあっても助かることだろう。
今回は、まだなかったが、いずれリスナーから質問や体験談が寄せられた

ら、きっと親切に同じ目線で受け答えされるのだろうなあ、と思わせる誠実さが十分に伝わる内容である。

委員 実際には二人の子供を育てている和田アナの奮闘の一部がみえる番組だ。久しぶりに彼女の声を聞いたがたいへんパワフルになっていると感じたのはわんぱく盛りに育てゆく二人の男の子と闘っていく母親の強さだろう。本当にあった事の泣き笑いは子育てと言うきれいごとではいけない。特に女兒と違って男児の場合は母親としてこれからが悩むところだ。やっと1年生、この制服の話は親として成長した我が子に逞しさや頼もしさをみる機会でもある。水が大嫌いだった子が友達を見て泳ぐと言い出した、社会生活を始める第1歩だ。和田さんのはなしからその変化のうれしさが伝わってくる。②のグッズは多くのママやパパに情報として伝わるコーナーだ。核家族で育児法も母から子に伝わったり手助けを頼めない中で途方にくれる若いママやパパの励みになる体験談をし、悩みを共有し解決する役立つ育児番組になればいいと思う。自転車やベビーカーの前後に子供を乗せているママを見かけると心の中でご苦労様、がんばってねとはげましている私としてはこの子育て応援番組にも和田さんにもエールをおくりたい。

社側 書面での貴重なご意見、ありがとうございます。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

なし

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第635回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」 内で放送
放送日 令和3年 4月 28日 (水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第635回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。